

明石市の小学校では年間185回の給食のうち、牛乳が183回と飲むヨーグルトが2回提供されています。これほど、頻繁に出てくる食材は他にありません。6月の議会では、2つのポイントから月に1回牛乳なしの給食を出すことを提案しました。

## 月に1回 給食の牛乳 やめてみる



飲めない↓同じものを食べられない

市内小学校では、児童数約1万5千人のうち129人が、ほぼアレルギーを理由に牛乳を欠食（申し込まない）しています。これらの牛乳・乳製品アレルギー児童は、クラスメイトと完全に同じ給食を一度も食べることがありません。この少数派の子供たちにも、みんなと同じものを食べてもらいたいと考えました。

毎食牛乳という食習慣が良いのか

学校給食法では、「望ましい食習慣を養う」「伝統的な食文化についての理解」などが目標として掲げられています。

その日の献立と無関係に、毎回牛乳が出ることは、正しい食習慣・食文化と言えません。

カルシウム等の栄養価を、基準値まで摂るために出されるのなら、もはや牛乳はサプリメントです。

一日の必要量の2分の1を摂る

文部科学省の学校給食実施基準では、一日に必要なカルシウムの50%を給食で摂る基準としています。そ

こで、価格の安さ（約52円）や調理の手間が要らない面でメリットの大きい牛乳が活用されてきました。しかし、牛乳に頼り切った献立が当たり前になってきていることは、見直す必要があります。

極端な牛乳神話

「牛乳無しでカルシウムを摂ろうとしたら、豆腐半丁ですよ！不可能です！」というような反論が給食関係者からされてきました。議会でも「牛乳の代わりはホウレンソウ2把」などと答弁がありました。これは牛乳ありきの極端な主張です。新潟県の三条市では、週に1回ほど牛乳なしの給食を提供しており、無理と決めつけてはいけません。

牛乳好きです

私は牛乳好きであり、家族も好んで飲んでいきます。また、給食から牛乳を追い出そうとしているものではありません。給食の可能性を広げるためにも、月に1回の牛乳なし給食を提案しています。

### 平成27年度 ふるさと納税の実績比較

自治体名	金額(円)	件数(件)	
兵庫県明石市	798万	112	明商野球部へ265万円含む
宮崎県都城市	42億3千万	288,338	受入額、件数ともに日本一
兵庫県南あわじ市	4億9千万	10,821	県内受入額1位
兵庫県淡路市	4億7千万	26,558	県内の件数1位

自治体名	アイデア返礼品の例	必要な寄附額
加古川市	マラソン参加権	1万3千円
多摩市	日本アニメーションスタジオ見学(ちびまる子ちゃん、など)	7万円
東かがわ市	一日市長(職員への訓示体験など)	100万円
紋別市	オホーツクの流氷5kg	1万円
二戸市	リンゴの木オーナー権	10万円

全国で大きな盛り上がりを見せている“ふるさと納税”に、明石市がようやく参戦。これまでは、特に返礼品なしでしたが、この度“あかし玉手箱”と称した産品詰め合わせを送ることになりました。

何年も企画を練り、遅れに遅れてスタートした割にはインパクトに欠ける返礼品ですが、不十分さを逆手にとって、市民と役所がアイデアを出し合うきっかけとしましょう。

## ふるさと納税遅れてスタート

ふるさと納税(制度的には寄付)は、自治体からのお礼の品が過剰な競争となる恐れがあり、明石市は参戦を控えてきました。とはいえ、他の自治体は既にノウハウとリピーターを蓄積しており、出遅れの責任は大きいものです。現在の明石市政には商売っ気が足りません。

過剰な返礼品合戦は、総務省も控えるように通達を出しており、鎮静化するでしょう。その後にはアイデアを活かした競争になります。明石にある素材を活かすアイデアを、市役所だけでなく市民と一緒に練り上げることは、ふるさと納税のみならず、市民協働や郷土愛の面でも重要になります。